男女共生リポート

◆テーマ◆

『女と男の21世紀』

男女共生講演会の模様をリポートいたします。

去る2月21日コンパルホール多目的ホールにて、NHK解説委員としておなじみの小宮山洋子さんをお招きして「女と男の21世紀」というテーマの講演会を実施いたしました。当日は、予定参加人数を上回る多くの方にご参加いただき、講演後に設けられた質問タイムも白熱したものになりました。

紙面の都合上、全てをご紹介することはできませんが、大変有意義であった講演内容の一部をご紹介いたします。

小宮山　洋子氏

～今日のテーマについて～

私はわざと女を先に書くのですが、こう書いていても「男と女」と半分以上の方が読まれます。なぜ私はわざわざこうするかと申しますと「たまには女が先であってもいいでしょ」という気持ちもありますが、もうちょっと意味をこめて―中略―これからの21世紀本当に一人一人が豊かに生きるためには、これまで余り意見が反映されなかった女の側からの見方それから子供の価値観、多様な価値観を認めあえるような社会にしていかなければいかないんじゃないか、そういう思いがあってこのタイトルにしました。

～男女参画について～

こういう話をすると「あっ、また女のための事ね」と思われる、特におじさま方に多いのですが。だけど私は今、男女共同参画、女だからどう、男だからどうという事に縛られずそれぞれ自分らしく能力を生かしながら生きられる社会にしていく。これは勿論女にとっても必要ですけれど、それと同じ様に或いはそれ以上に男の方にとって、それは人生80年豊かに生きるために必要な事だと思います。熟年離婚が流行ってますよね。（会場笑い）しかも定年後いきなり妻に切り出されるパターンが多い。いきなり妻に出ていかれた後、家事が何もできなくて苦労するのは男の方なんですよ。（会場大きくうなずく）

それと「すべて平等に」とは申しませんが物事を決めるところにもうちょっと女の数が増えて、男女のバランスが良くなるということが実現していかないと、世の中の法律とか制度の仕組みとかは変わっていかないと思います。「参画じゃなくて参加じゃいけないのか」とおっしゃる方がいますが、やはり意味合いからすると参画じゃないといけない。参加というのは男の人が作った土俵に後から加わる。参画は画の字に意味があって、これは企画立案の画なんです。物事を考え出すところから男女で共にやりましょうということなので、やっぱり男女共同参画じゃないといけない。だけど今の世の中は物事を決める、決定力のあるところには圧倒的に男が多いというのが実情です。

～北京会議で得た2つのキーワード～

これからの日本が、本当に男だから女だからと言わないですむキーワードなんですが、ひとつは言い続け、やり続けるということなんです。北欧の国というのは今一番男女平等に近い国ですよね。女たちが言い続け、やり続け、とにかく戦い続けることをやめなかったからなんです。―中略―私の経験上、100言ったら1変わります。「100言って1しか変わらないんならしょうがないじゃない」と思われるかもしれませんが、今日もたくさんの方がお見えになっています。皆さんが100言ってひとつずつ変えていったら大分市もかなり変わるんじゃないですか。ただし元気にです。

もうひとつは「義務ではなく権利」ということです。従来男性の多くは、男女平等社会にするのは義務だと思っていらっしゃる方が多かったのですが、最近は義務ではなく権利だとおっしゃる方が出てきて、義務だと思うといやいやながらするので、なかなか前に進みませんが、権利だと自主的なので前に進むスピードも早くなる。それは男にとっても権利なんだ、ということを気づいてもらうために女の側からの働きかけも必要だと言う事です。ですからこれからは男の方も積極的に入っていただいて皆で考えていくことが必要だと思っています。

～男女の違いとジェンダーについて～

私、男女の違いはそんなにないと思っているんです。生まれながらの違いは女が子を産む性。それと男が筋力が強いということ。それしかないんじゃないでしょうか。あとはジェンダーだと思います。ジェンダーというのは社会的・文化的に作られた性差で人間の私たちが勝手に作ったものなんですね。生まれながらの違いはそんなにないのに「夫婦は二人三脚で」という言葉がある。二人三脚というのは力の強い方に引っ張られて片方が不自由な気持ちになる。二人四脚でいいじゃないですか。

女性政策推進室より

女性政策推進室では、この講演内容のすべてを再現した資料の閲覧を行っております。お気軽にお越しください。

Today's Date

実施日　平成10年2月21日(土)
時　間　90分間
会　場　コンパルホール（多目的ホール）
講　師　小宮山　洋子氏（NHK解説委員）
参加者　398名